

## しまなみ海道クラシックカーラリー'99

医療法人社団 涼風会 佐藤脳神経外科  
佐藤 透

なつかしの話題は、ネット検索から始まった。あれえ～オイラが写ってるぜ、これは次男の悠くん、向こうに三男舟くん、お隣りに鎮座ましますはマツダ T-2000三輪トラック (1967、井野和成氏所有) [図1]。なつかしこやしはあの“しまなみ海道クラシックカーラリー'99”、ご出発前の尾道は古浜、手塚弘三氏の啓文社ブックセンター駐車場のヒトコマ。そういやあ～こうゆう時間もあったでな。車旅大好きな趣味人、フィアット850スポーツカー (1971) は弘津興太郎氏のブログ (<http://www2.gol.com/users/kotaro-h/1999/shimanami.html>) に思わず見入る。

瀬戸内しまなみ海道 (西瀬戸自動車道＝西瀬戸尾道IC～今治IC、59.4km) は、風光明媚な芸予諸島に架かる10本の橋梁より成る。(新)尾道大橋 (546-385m) — 因島大橋 (1270m) — 生口橋 (790m) — 多々羅大橋 (1480m、



図1 オイラと悠くん舟くんとマツダ T-2000三輪トラック (1967)

世界一斜張橋) — 大三島橋 (328m) — 伯方・大島大橋 (325m、伯方橋・大島大橋) — 来島海峡大橋 3連吊橋 (960+1515+1570m) [図2]。このしまなみ海道が全橋完成したのが1999年5月1日 (全線開通は大島・生口島道路が完成した2006年4月29日)。その完成のお祝いに“瀬戸内海大橋完成記念イベント”のひとつとして催された“しまなみ海道クラシックカーラリー'99 (アートディレクト、河口知明氏主催)” [図3]。1969年以前製造の車60台公募、2名1組、1999年5月3-4日、1泊2日で尾道から今治まで、公道を使用したタイムラリー。全国から古～い車大好き人間がぞくぞくと集まって来た。遅れちゃならねえ～ここぞとばかり、3月10日、締め切り間際ギリギリに申し込みを済ませた。



図2 しまなみ海道全線通行券；西瀬戸尾道～今治～¥4500



図3 多々羅大橋カネオクレタムのぷり

参加車両は、ポルシェファンなら知らない人はいないという、かのサーキットの狼、風吹裕矢のライバル早瀬左近が操る、あの伝説のナナサン・カラRS。ポルシェ911-73 RS Carrera (91166-663、車台番号9113600117)、ライトウェイト・スポーツモデル、2.687 L、210 PS/6300 rpm、26.0 kgm/5600 rpm、911/83型空冷水平対向6気筒SOHC、5速MT、タイヤ185/70、215/60VR15。ボディは明るい黄色の檸檬色 (Lemon-yellow)、サイドにCarreraの黒色デカール、リアスポイラーはセクシーなあのダックテール (あひるのおっぱ)、0.80mm厚のこだわり軽量鉄板 (量産車=0.88mm厚)、3.1-3.5mm厚の軽薄ガラス類 (4.4-4.5mm厚) を使用して、車両重量=1110kgとなる。ナロークラブ・アイランド (徳島・阿南市、仁尾進氏) [図4] で見初めて、しばし悶々とした憧れを抱いていたけど、前車のポルシェ911-67Sと交換+追金支払、1998年12月15日、やっとこどっかい届けられた。

今回がポルシェ911-73RS Carrera初めての遠征～競技ご参加となる。ちいたあ愛車を自分で整備してみよう、ってんでボンネット開ける。れれっ～エンジンがねえべ、さっすがポルシェ、エン



図4 ナロークラブ・アイランド；垂涎の名車-904GTSとナローポルシェ911達

ジン無しでも走るんじゃ、てなことは～しょーもねえお笑いネタ。リアフード開けて、まずはRRエンジン点検、エンジンオイルはカラカラのミニマムだけど継足しはご無用。お次はプラグをはずしてみちゃろ、3番が抜け難い～プラグ電極に煤スけはないなヨシヨシ、抜けたけど戻すの嵌るかな、しこしこレンチをめいっぱいチョイ手前で締めは終了にしておく。あれえ～このナット緩いんとちゃう？エンジン本体をボディに止めるデッキイボルトナット。こいつもこちらもここも、このナットどうナットん？ギャグってるバヤイじゃねえべ、これってヤバイんとちゃう？またまた、ひよっとしてヒョットコ (=clown、道化師) して、他のところも怪しいんじゃない？うにゃあココもここも docomo も、au・softbank もあそこも、ぜ～んぶ緩いユルユルぞなもし。

そうだった、これって、米国カリフォルニア・ロサンゼルスはポルシェ・レストアの神様 John Tolen 氏、彼が精魂込めて創り上げ1994年4月29日に完成したレストア作品。本物車体+エンジンに数々の新品部品を調達して、プラモデルよろしく匠の技で組み上げられた。オリジナルと遜色なく～いやカリ



図5 John Tolen 氏レストアの911-73RS 兄弟分-RRエンジンと下回りの鏡写

ジルよりももっと美しく復元された、新品同等の名車=ポルシェ-911-73RS Carrera [図5]。当時ポルシェクラブ・オブ・アメリカ(PCA=Porsche club of America)で行われたコンクール・デレガンス(Concours d'Elegance)に出品、見事入賞を果たしたって代物だ。あるある自筆の注意書きに“この車は個人的コレクションが為にレストアされたものです、実車走行の際にはメカニックによる全面的な精査・点検が必要です”。な～んだそっかあ、ネジの類は錆がでるからレンチは使わずで、コンクール用に指で廻して締める程度にしてある、ほなネジの増し締めせなんでな。そう言えば、車庫の床に子ネジがいくつか落ちてたぜ。うーんあれはどこから来たんだろか、くわばらクワバラ、京都桑原は雷よけのおまじない。

1999年5月3日は快晴、しまなみ海道クラシックカーラリー'99が開催された[図6]。ラリーとは、



図6 しまなみ海道クラシックカーラリー'99、ナビゲーターの悠くと舟くん

主催者が用意した略地図に従って一定区間を走行し、あらかじめ設定された目標タイムにどれだけ近いタイムでゴールできるかを競う競技。つまり、サーキットを周回して走行タイムを競うレースと違って、ラリーでは速く走った人が必ず勝つわけではない。走行区間それぞれで指示速度を正確に計測してタイムを補正する～助手席同乗のナビゲーターとのコンビで絶妙な作戦を立てる頭脳プレイが要求される。ナビゲーター同乗の悠くん・舟くん、頼んだよって。

ブリーフィング=briefingで配られた地図、まずは国道2号線を松永方面に戻って、尾道大橋入口から県道317を昇って、しまなみ海道最初の①尾道大橋を渡ってすぐ降りる[図7]。向島ICから入って、②因島大橋を無事通過。2車線から1車線となる大浜P 辺りから大浜



図7 ラリーコース略地図；尾道大橋ー向島

滞、クラッチペダルを踏みっぱなし、ってところで突然ですがエンジン停止。なんなんだこりゃあ～あ、ペダルをペコペコ・ペコペコ・ムペコペコ踏み込んでスロットル煽って、何度もイグニッション廻してみる。ダメじゃん、おっし緩い下り坂～これなら次なる作戦がいいかも。“すみませ～ん、ちょっと押してもらえますかあ～？”、道路脇から駆けつけたザ・ガードマン2人に押し駆けをお願いする。おっ掛かった・かかったぜ、復活全快じゃ～エンジン全開～よかったあ。ほっと一息、因島北ICで降りる。因島水軍スカイラインを昇って、白嶽ノ鼻手前で最初のチェックポイントを無事通過。ぐるりっと廻って因島南ICから本線に入る[図8]。③生口橋を渡って、すぐに生口島北ICで降りる。耕三寺方面を迂回して、海岸沿いをサンセットビーチから多々羅大橋の橋脚をくぐって、第2のチェックポイント通過、生口島南ICから本線に戻る。

世界一の斜張橋④多々羅大橋を眺めながら



図8 ラリ-コース略地図；因島大橋-因島

渡り終えて、大三島ICで降りる。そろそろここでト昼休憩だ [図9]。展望台から海と空と島々の織成す絶景を眺める。群青の海とこれに撥ねる金波・銀波、うすい雲の浮かぶ青い空。あれが瓢箪島かあ、NHK人形劇“ひょっこりひょうたんじま”のモデルは、まるで瓢箪そっくりの形、広島県と愛媛県の県境が横断する無人島なり。道の駅で昼飯喰ってプリ撮っていざご出発。大山神社から西側海岸を辿って、初日の終着点に無事ご到着。おっとタイムを忘れてた、参加車の真ん中より後っぽけど、気にしな～い気にしない～分からな～い。

お宿は、大三島ふるさと憩いの家 (<http://>

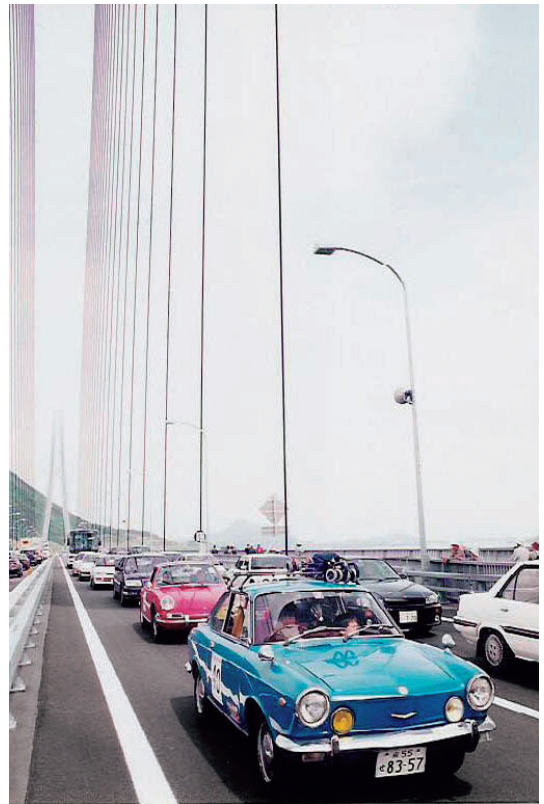


図9 ヴィヴァ viva～多々羅大橋とフィアット850スポーツクーペ (1971)

iyokanet.jp/front/spot/detail/place\_id/4069/)。ここは廃校となった旧宗方小学校、立派な木造校舎を宿泊施設に改装 [図10]。なつかしの木枠の板ガラスの窓と長い板張りの廊下、ここが音楽室、ここが保健室、してそのお隣りは校長室、タイルの手洗い洗面所と一斗缶ゴミ箱にシダ箒。広い校庭に整然と並べられたクラシックカーとの絶妙な組み合わせ、まるで昭和にタイムスリップしたみたいだ。みんなで囲む BBQ の宴、空きっ腹に届くご褒美はまた格別の味わい。お後は教室を改造した客間で、ワイワイガヤガヤお隣りさんとお話して、風呂ひゃあて、明日に備えて早めに雑魚寝でおねむねむ。

翌朝はあいにくのアメあめ雨だ。エンジン火い入るかな？ 3-4 回セル廻してメカポン動かして、そろそろガスが届いたところで、一気にグワンぎゅわんどドドドドと勢いよく火を噴いた。さあて荷物を積み込んで、エエツこりゃあまたどうしたことかいな？ 右後部座席がびっしょり濡れてるじゃん、屋根から雨漏りってことはないよな。あっココロこれだあ、右後部窓枠とボディとの間に 1cm もの隙間がある。外の青空駐車は初めてなもんで、これまでは気づかれな



図10 大三島の宿は荘厳な旧宗方小学校

かったけど。これって本質的に、ボディ形状と窓枠が合っていないとちゃうの？かの John Tolen も見逃しておったのかプンプン。帰ったらパテで目隠しして塗装に出さんとけんがな。

ラリー 2 日目は到着タイム順に計測してご出発 [図11]。大三島南東の海岸沿いに多々羅大橋に戻って、大三島 IC から本線に入る。⑤大三島橋を渡って伯方島 IC で降りる。右に曲がるところを左に曲がって海岸沿いを辿ると、れれつつすぐさま 3 番目のチェックポイント発見。こりゃあちゃうでな、反対廻りに気が付いてやり直して、元を辿って北廻りにほぼ島を一周する。こんな道ダイジャブかいなあってところもなんとか続いて通り抜ける。これじゃとても伯方の塩ラーメンなんぞ喰う時間はねえ



図11 ご出発は生憎の雨日、先頭はアストンマーチン・インターナショナル (1930)

べ。チェックポイントを通過して、伯方島 IC から本線に戻る。⑥伯方橋+⑦大島大橋を渡って、大島北 IC で降りる。伯方島での遅れを取り戻さんとけん。吉海町を通り抜けて崖っぷち海岸沿いを地蔵鼻のチェックポイントまでブイブイ

っ飛ばす。下田水港を曲がって大島南 IC にたどり着く。⑧来島海峡第一大橋→⑨来島海峡第二大橋→⑩来島海峡第三大橋を渡り終えた。これで瀬戸内しまなみ海道全10橋梁を完全制覇した、やったぜベイビィ、ト大袈裟かな。終点の今治北 IC を降りて、お後はゴールのワールドプラザ (今治しまなみ観光物産館) を目指すだけだ [図12]。

今治の街中を抜けて海岸沿いをひた走る。ワールドプラザの入口を見つけてそろりと駐車場に入る [図13]。着いた着いたぜ、遂に完走したんだ。んでどこ止めとこかあ？ってると係りのお二人さんが寄って来た。“止めるのどこでもええんかいな？”って言葉をさえぎって、“いまのところ計測タイムがトップですから、またあとで連絡しましょう。”、エエツなにそれ、ほんまあかいなあ？ポルシェ911-73RS Carrera の試運転を兼ねて、ラリーの何かもよく知らないで、参加することに意義ありがモットーだったんだけど。後半に雨の中をぶっ飛ばしたのがよかったのかな、いやいやそんなこたあねえじゃろ。狐に包まれたってのはこのことかいな。タイムの速さを競うでなく、あらかじめ設定されたタイムとの僅差であることを争う。前



図12 来島海峡3連大橋を渡り終え、瀬戸内しまなみ海道全10橋梁を完全制覇



図13 ゴールのワールドプラザにご到着、完走だ、

日と本日を合わせた主催者設定の時間との誤差がわずかに130秒だったことで、“開けてびっくり玉手箱”のおハナシ、なぜだか不思議なれど、突然ですが優勝とあいなった [図14]。やったあ〜ってこともないけど、ラッキーじゃん。愛車ポルシェ-911-73RS Carrera を前にして、表彰台に上がって、この幸運の抱負を述べた。恒例に従ってみんなでそれいけシャンパン・ファイト (champagne fight)、シャンパン・シャワーのパフォーマンス [図15]。優勝のご褒美は Moet の 6 L 木箱入りシャンパン (モエ・エ・シャンドン・ブリュット・マ

チュザレム、6000ml、Moet & Chandon imperial brut)、あの F-1 の表彰台で掛け合うモエ・エ・シャンドン (1985-1999) のドデカイボトル。これが最初で最後の栄光だ [図16]。

ポルシェ-911-73RS Carrera の初舞台は、しまたなみ海道クラシックカーラリー'99で運よく優勝、ホントよき思い出となった。ナビゲーター役の次男悠くん (当時10歳) と三男舟くん (9歳) は、ただいま川崎医科大学の6年 (24歳) と5年生 (23歳) になっている。これじゃオイラも歳を取るわけだ。いったいつまでこの車と付き合えるんじゃないか? 一発じゃ掛からないメカポンに重いクラッチ・ペダル、マニュアル・シフト操作だから、両手両足・四肢全部がオイラの言うこと利いてくれて、眼と耳が確かで、何よりも判断力がしっかりしているに限る。またこんな楽しいひと時をたっぷりブリアリ堪能してみたいもんじゃ焼き〜そう思う此の頃である。

(20130926-58歳の誕生日に)

№	所有者	一日目	二日目	総合	差分(秒)
35	佐藤 浩 (ポルシェ911S)	5:27:35	3:22:0	8:29:55	130
24	片岡 孝 (MG-TD)	5:17	2:33:30	8:34:37	152
34	北山雅彦 (アルファロメオ1750GTV)	5:16:25	2:19:40	8:36:5	240
43	山本正雄 (ダットサンブルーバード)	6:03:5	2:27:30	8:28:5	240
10	常田裕生 (オースチンヒールースプライトMK-4)	5:27:45	2:31:15	8:39:0	415
2	曾谷政司 (アルビースA110)	4:30:10	3:54:25	8:24:35	450
7	平野弘吉 (アルビースA110)	4:33:20	3:48:30	8:21:50	515
31	野村 浩 (フォルクスワーゲンマイクロボス)	5:30:45	2:59:50	8:21:35	530
17	石原 浩 (ロータス MK-6)	5:45:50	3:4:6	8:48:56	1071
11	今中昌巳 (MG1100 MK-1)	5:38:45	3:12:25	8:51:10	1145
6	富田卓也 (ロータスヨーロッパ)	5:49:50	3:1:40	8:51:30	1165
25	井野和成 (マツダ三輪トラック)	5:12:50	2:59:20	8:12:10	1165
27	山下智行 (モリスミニクーパー-S MK-1)	5:46:35	3:4:25	8:54:0	1315
8	二宮光秀 (コスモスポーツ)	5:24:10	2:46:8	8:31:18	1357
14	山下 信 (オースチンA30)	5:37:30	3:25:0	9:2:30	1825
17	板外信幸 (フォルクスワーゲン)	5:15:15	3:49:0	9:4:15	1930
4	高松克彦 (ポルシェ911)	5:11:15	2:57:30	7:58:45	2000
42	石井正美 (日産スカイライン2000GT-X)	6:51:25	2:14:8	9:53:3	2008
32	竹口和幸 (日産フェアレディZ)	6:58:8	2:23:5	9:21:13	2948
29	宮村浩信 (日産フェアレディZ-R)	6:59:18	2:23:0	9:24:18	3133
18	赤野 剛 (オースチンヒールースプライトMK-1)	6:22:2	3:2:20	9:24:22	3137
26	竹内 遼 (アルファロメオジュリエッタスパイダー)	6:27:53	3:1:42	9:29:35	3450
24	高橋昌勝 (コスモスポーツ L108)	6:28:40	3:5:28	9:34:8	3723
12	花木忠嗣 (マツダB-360)	6:36:27	3:4:20	9:40:47	4122
28	西海武志 (アルファロメオ2000GTV)	6:28:45	3:13:10	9:41:55	4190
19	松浦健司 (アルビースA110)	6:41:8	3:3:45	9:44:53	4268
9	竹口英三 (スカイライン2000GT)	7:10:52	2:44:0	9:54:52	4987
50	森塚 淳 (日野コンテッサ)	7:17:4	2:38:35	9:56:38	5014
16	矢島源平 (フィアットアルバルト850TC)	6:48:10	3:8:20	9:56:30	5065
40	弘津典太郎 (フィアット850スポーツクーペ)	7:16:0	2:46:40	10:8:40	5785
30	松浦成介 (メルセデスベンツ220SE)	7:2:55	3:7:30	10:10:25	5900
39	上江 寛 (MG)	6:38:5	3:44:5	10:22:13	6838
33	村上和徳 (ダットサンフェアレディ-1600)	7:23:37	3:18:3	10:38:40	7855
5	佐藤彰博 (MGジェット)	7:43:0	2:56:55	10:39:55	7670
41	百原和秀 (メルセデスベンツ190)	8:13:50	1:58:5	5:13:55	11890

図14 ラリー成績、設定時間との差分=130秒、開けてびっくり玉手箱の第1位、



図15 表彰台から、それいけシャンパン・ファイト



図16 ポルシェ-911-73RS Carrera の初舞台、しまたなみ海道クラシックカーラリー'99は運よく優勝〜ご褒美はモエのシャンパン〜エ・シャンドン・ブリュット・マチュザレム-6リットル-木箱入りどでかボトル